



第13回

今よりも前のことを言う!

～ was と were の使い方～

学習のポイント

- wasやwereを使って以前のことが表現できる
- 以前のことを表すさまざまな表現が使える

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

was や were を使って以前のことが表現できる 以前のことを表すさまざまな表現が使える

■コミュニケーション

You were a smart boy ten years ago.

この文は「10年前は利口な少年であった」と、10年前のことを述べているだけで、「今でも利口な少年である」と言っているわけではありません。日本語でも同様ですが、特に英語では、「以前のこと」と「今のこと」をはっきりと分けて表現します。そのため、時として、「以前は～だったが、(今は～ではない)」、という意味を暗に示すことがあります。

番組では、直美さんの小さいころの写真を見て、

You were so cute.

You were pretty.

You were skinny.

と皆が次々と直美さんのことを褒めますが、いずれも「以前は～だった」という意味であり、今はそうではないということを暗に言っています。

直接的に言わずに遠まわしに相手のことをひどく言うことを「皮肉」といいますが、**was** や **were** は皮肉を言うときに便利な表現なのかもしれません。

■単語や表現

I was ten years old.

この文の意味は、「私は10歳でした」ですが、今のことを言うのであれば、

I am ten years old. となります。

数字の部分言い換え、I am twenty / thirty … sixty / seventy years old. など使えます。

さらに、**years** の部分を変えると、This coffee is two hours old. 「このコーヒーは作ってから2時間たっています」などという表現にも応用が出来ます。

また、This rope is one hundred meters long. 「このロープは100mの長さです」の **long** を **high** に変えて、Mt. Fuji is 3,776 meters high. 「富士山は3,776mの高さです」とも言えます。さらに、**high** を **deep** に変えて、The snow is ninety centimeters deep. 「雪は90cmの深さです / 積雪は90cmです」などとも表現できます。

これらの文の基本的な構造は、以下のようにまとめることができます。

I am / X is + 数字 + 単位 + old / long / high / deep.

以前のことを表すときに、必ずと言っていいほど使う表現が **ago** です。**ago** とは「離れてゆく」という意味で、**back** と同じような意味です。

この語は、時間を表す表現の後に使われ、「今から～前」という意味になります。

ten minutes ago (10 分前)
 three days ago (3 日前)
 five weeks ago (5 週間前)
 four months ago (4 か月前)
 hundred years ago (100 年前)
 eleven centuries ago (11 世紀前)

■英語のきまり

今のことについて述べるときに、

「1 人の人や 1 つの物について言うときは **is** を使う」

「2 人以上や 2 つ以上のものについて言うときには **are** を使う」

「自分のことについて言うときには **am** を使う」

これらのことは、第4回で学習しました。では、以前のことを述べるときにはどうすればよいのでしょうか。今のことについて述べるときよりも簡単になり、**was** と **were** の2つを使い分ければよいのです。

きまりは次の2つだけです。

「自分も含め 1 人の人や 1 つの物について言いつきには **was** を使う」

「2 人以上や 2 つ以上の物について言うときには **were** を使う」

例文で見ていくと以下ようになります。

- 1) This tree is two meters tall. → This tree was one meter tall last year.
- 2) I am a company president. → I was a student in 1995.
- 3) We are in Spain. → We were in France yesterday.

これを表にまとめると、次のようになります。

is	⇒	was
am	⇒	was
are	⇒	were

以前のこと言うときには、「1」か「2以上」の違いでの使い分けになります。裏を返せば、それだけ英語では「1」と「2以上」の違いが大切ということでしょう。

column

アルファベットと発音 ⑬

W w

ダブリューと発音します。英語ではかつて **U u** と **V v** は区別されることなく使われていました。その後、**U u** は母音（日本語のアイウエオに当たる）を表す文字として、**V v** は子音（アイウエオ以外の音）を表す文字として使われるようになりました。この **W w** は、その形から見ても明らかなように、**V** あるいは **v** を2つ続けた文字です。ですから、2つの **u** という意味で、**double u** と呼ばれるようになり、それが今の **W w** の発音になりました。



Welcome は、よく人を歓迎するときに使われる言葉です。「わが家へようこそ」ならば、**Welcome to our house.** ですし、「日本へようこそ」ならば、**Welcome to Japan.** です。

water は「水」のことですが、日本語では温度の高い水のことを「湯」と言い、温度の低い水のことを「水」と言って温度で言葉を使い分けます。しかし、英語では温度に関係なく **water** を使います。英語の **water** の指し示す範囲はさらに広く、人の「汗、唾液、尿、涙、羊水」なども **water** と呼ばれます。ですから、**watery eyes** は、「水っぽい目」ではなく「涙ぐんだ目」「涙目」という意味です。

.....

X x

エックスと発音します。私たちは数学からの影響か、何だかわからないものを **X x** で置き換えることがよくありますし、**X x** を見るとそのようなものを連想します。エックス線を発見したドイツの物理学者のレントゲン (**Röntgen**) も同様に、自分が発見した未知の放射線を **X-ray** と名付けました。**X-ray** とは、現在でも診察などで使われている「エックス線」「レントゲン」のことです。



box の語源はかなり古く、ラテン語さらにはギリシャ語にまでさかのぼります。元々は「ツゲの木」のことを指していましたが、その後「ツゲの木で作られた頑丈な箱」のことを意味するようになり、現在の「箱」の意味になっています。
